



## 御池岳 1247m 10月29日



市橋、伴野、水野、柴橋、中村、織田  
——コグルミ谷を登り、鞍掛峠へ下る周回ルート。  
▲紅葉を求めてか駐車場は満車。8時30分発、水の枯れたコグルミ谷を登る。途中の長命水は没する寸前。9時45分カタクリ峠、ここから明るい尾根道を登る。真の谷に沿って北上し、11時頂上の丸山へ着く。20数人の登山者。広大な草原と断崖のポタンブチを往復した後、12時50分鈴北岳到着。タテ谷は降り口が不明瞭だったため、鞍掛峠への尾根道を下る。色づき始めた紅葉の中、国道を歩き、14時45分駐車場到着。



——コグルミ谷を登り、鞍掛峠へ下る周回ルート。  
▲紅葉を求めてか駐車場は満車。8時30分発、水の枯れたコグルミ谷を登る。途中の長命水は没する寸前。9時45分カタクリ峠、ここから明るい尾根道を登る。真の谷に沿って北上し、11時頂上の丸山へ着く。20数人の登山者。広大な草原と断崖のポタンブチを往復した後、12時50分鈴北岳到着。タテ谷は降り口が不明瞭だったため、鞍掛峠への尾根道を下る。色づき始めた紅葉の中、国道を歩き、14時45分駐車場到着。

—記録：織田

▲登山口からカタクリ峠までの登りは、とても急に感じました。息苦しく鼓動は激しく、心臓と肺が飛び出ると心配しましたが、杞憂に終わりました。心肺機能が弱いのかな？

▲御池岳まで登ると、なんと景色の良いことでしょう。近景と、遠景も。ポタンブチ付近の足がすくむような断崖絶壁。そこに至るまでの雄大な景色と青い空。鈴北岳までの一面の枯れたシダ類やコケ類。石灰岩が雨水によって溶かされて出来たドリーネの連続。尖ったものやら丸いものとバラエティーに富んだ石灰岩。さしずめミニ秋吉台。無事に下山でき、とても快適な一日を過ごせたことに、感謝感謝!!

——中村

## 個人山行 平山明神山ほか 10月23日

市橋、水野 平山明神山 950m、大鈴山 1,012m、鹿島山 912mの奥三河の3座を巡る  
▲今回ルートは、和市駐車場→平山明神山→大鈴山→鹿島山の反時計回りの周回コース。平山明神山への途中、令和4年3月滑落死亡事故発生の注意喚起の警告が出ていました。確かに鎖場・馬の瀬等の難所も多く、又途中踏み跡が薄く数回ルートを外しかけるヒヤリハットもありました。「おかしいなと思ったら戻る」の基本動作により無事下山できました。 —水野

⑤



ラダック便り・沖

## 東海支部登山隊 総隊長沖 允人

▲6月28日中継点のキャンプ地（Chogdo Gongma）に到着した。沖総隊長は、高齢とこの先のキャラバンの困難さから、ここでレーに帰りラダック地方奥地の探査旅行をすることにした。  
▲6月29日中継点のキャンプを徒歩で出発し、3時間でコンマル峠 5260mに到着した。ここからカン・ユーセイ山群の全容が望まれた。そこから南に細い道を下り3時間でニマリン谷に降り立ち、2時間ほど花の咲き乱れる草原を移動して5000m地点にキャンプした。隊荷は24頭の馬で運んだ。キャンプ地は広々とした草原で、川も流れ気持ちの休まる所であった。 —以下次号

## 訃報

会長 梶田 明さん 88歳

かねてより病氣療養中の 梶田会長が 11月1日 ご逝去されました 稲沢のはしもと屋葬祭会館で 2日通夜、3日 告別式が執り行われました

家族葬のため 副会長など役員が会葬してきました

梶田さんは、平成14年 会長に就任、20年間にわたり、積極的な会の運営に務めてられました。ここに改めて哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします